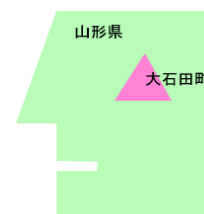


議会広報委員会 行政視察報告

2015年5月21-22日 山形県大石田町、村山市
戸田市議会議員 金野桃子

1 山形県大石田町

人口：7,917人（平成26年1月現在）
面積：79.59km²
一般会計予算：53億円（平成27年度）
議員定数：10人（平成27年1月現在、欠員1人）



山形県大石田町は、山形県の中央に位置し、面積が約80平方キロメートル、人口が約8000人の町です。町の中央に最上川が流れ、冬は2メートルを超える雪が降る豪雪地域で、豊かな自然のもと農業を主な産業とし、水稻、スイカ、そばが特産です。



▲そばや水稻の栽培が盛んです。漬物「ペそら煮」が名物

大石田町議会は、議員定数10人（欠員1人）で、議会だよりを編集するのは、5人の委員による広報常任委員会です。議会だよりは、年4回の定例会ごとに4回発行し、1回の発行あたり5、6回委員会を開催し編集しています。

	戸田市	大石田町
委員会	議会広報委員会(特別委員会)	広報常任委員会
発行状況	定例会ごと4回 45,500部	定例会ごと4回 3,000部
予算	346万4,000円	44万4,000円

大石田町議会の広報常任委員会委員長より、お話を伺いました。大石田町は少子化が進み、若い世代が少なくなっていることもあり、「読んでもらえるページ作りをすること」を意識して作っているそうです。



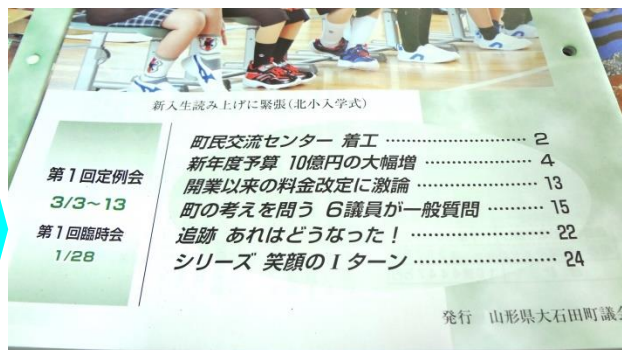
▲広報委員会の皆さんとの意見交換

▲参考資料等

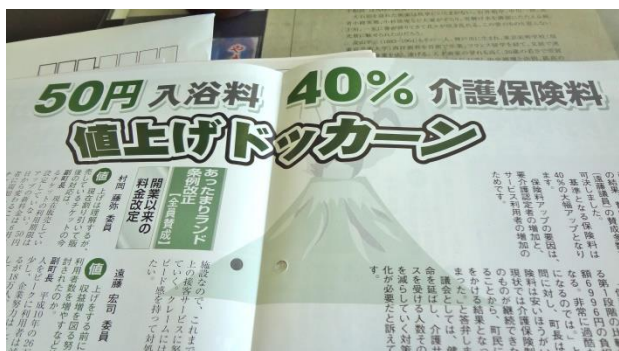
特に目を引いたのが、記事の見出しの付け方です。少しでも目を引いて、記事を読んでもらうようにと見出しやイラストに工夫しています。スポーツ新聞のような見出しやイラストは意見が分かれることもあるようですが、議会で議論したことをよりわかりやすく町民の皆さんにお伝えするため、毎回趣向を凝らして記事を書いています。



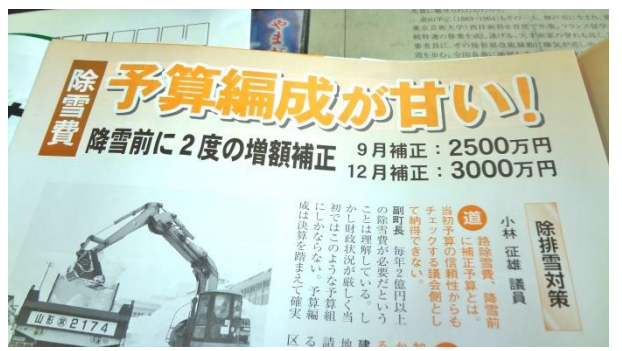
▲表紙見出し—スポーツ新聞のような見出しです



▲次号以降は落ち着いたものへ



▲「値上げドッカーン」噴火のイラストとともに



▲「予算編成が甘い!!」厳しい文字が並びます

その他特徴的なのは、「若者からのメッセージ」という特集記事です。大石田町では少子化が進み、若い世代の声を町政に反映させるために企画されました。

若い世代や女性に関心を
持ってもらえるよう
に工夫した紙面作り



▲地元名物ペそら煮のレシピ



▲地元新聞支店長、若者との座談会

【考察】

田畑に囲まれ農業が盛んな町の雰囲気のように、広報委員会の皆さんもとてもおおらかで、「読んでもらいたい」という思いが紙面からあふれていました。視察を受け入れてくださり、どうもありがとうございます。

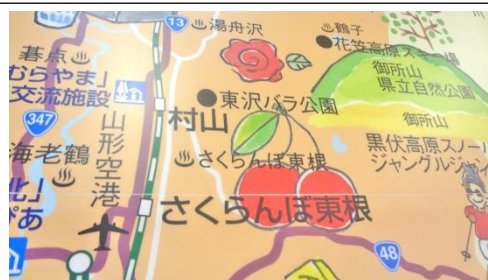


2 山形県村山市

人口：24,936人（平成27年現在）
面積：196.98km²
一般会計予算：117億5,000円（平成27年度）
議員定数：17人（平成27年5月現在）



村山市は、山形県の中央に位置し、東西22キロメートル、南北15キロメートルと広大な面積を有します。中央に最上川が流れ、広大な土地が開け、夏冬の温度差が大きい地域です。バラとそばと徳内まつりが有名です。周辺にはさくらんぼの畑もありました。



見どころのバラは6月上旬、さくらんぼ（佐藤錦）は6月下旬からが旬だそうです。



▲山形空港から車で20分の距離



▲さくらんぼ畑

	戸田市	村山市
委員会	議会広報委員会(特別委員会)	議会だより編集委員会
発行状況	定例会ごと4回 45,500部	定例会ごと4回 8,900部
予算	346万4,000円	92万6,000円

議会だより編集委員会の皆さんより、お話を伺いました。村山市議会では、各会派より編集委員が選出されており、数字等の確認以外、すべて議員が編集・発行しています。以前、市民の方から、「議員自ら作っていないのではないか」というご意見をいただき、「自分たちですべて作ることに意義がある」という思いで紙面づくりに取り組んでいます。



▲議会だより編集委員会の皆さんとの意見交換

村山市議会では、ほぼすべてを議員自ら編集しており、議会閉会後から5、6回集まり、朝から夕方近くまで話し合って作っているそうです。

驚いたのは、議員自ら議案（条例、予算等）の説明を書き、議会ごとに行っている議会報告会や委員会・分科会の審議内容も議事録等から記事を書き起こしている点です。「議会報告会等での要望や意見を載せるときに議会内で意見をまとめられるのか」、「立場によっては議案の説明や記事構成の際に意見が分かれるのではないか、」など質問したところ、「基本的に議員の責任で記事をまとめ、議会だより編集委員会で内容を確認し、白熱する議論をすることもある」とのことでした。議会だよりを編集する過程であらためて“議会での議論をどのように伝えるか”というもう一つの議論があるように感じました。

もう一つ驚いたのが、閉会後に1か月以内に発行するという早さです。閉会直後から議会だより編集員がページ割を行い、各議員が原稿を提出し、市広報とあわせて配布しています。

戸田市		村山市	
閉会	3月25日	閉会	3月19日
議会だより発行	5月1日	議会だより発行	4月15日

その他、表紙に市内で働く若い世代の皆さんの仕事中的表情のアップのシリーズにしたり、年明けの特集は議員の集合写真ではなく、子育て中の女性と議長との対談にしたり、裏表紙に市内で活躍している人にしたりと、紙面に多く“市民”が登場している点も特徴です。



▲表紙には市内の働く若者の写真



▲議長と子育て中の女性との対談



▲「市民の声」

【考察】

各党派から選出された編集委員の皆さんがほぼすべての記事を編集していることに驚きました。時には話し合いのバトルもあるそうですが、それも議会での議論と同じように、市民の皆さんに議会を知らせようという思いゆえだと思います。視察を受け入れてくださり、ありがとうございます。



▲村山市役所にて